

～創立50周年おめでとう！今までありがとう～安達東高校特集⑦

かわら版
いわしる

集落支援員だより



安達東高校卒業生の
声を紹介します！

安達東高校では令和五年度からの二本松工業高校との統合を控え、この三月に最後の卒業式が行われる予定です。高校の歴史を振り返る締めくくりとして、卒業生から高校時代の思い出や在校生へのメッセージを二回に分けて紹介していきます。

▼昭和48年、軟式野球部が全国大会で準優勝したときの入場行進の様子。閉会式では、楽団の到着が遅れたため、急遽、安達東高校のバンド部が演奏したことも思い出に



「全国大会で準優勝。十代の体験が自信や誇りになり、その後の人生を支えてくれました」
昭和四九年卒 渡辺孝一さん

安達東高校が誕生したのは私が安達高校の大平分校四年生のときです。当時は定時制高校として登校は週四日程度、残りの日は家で農作業の手伝いをしていました。友人と会えるのが楽しくて学校に通っていました。友達と一緒によく走ったり、ふざけたりしました。が、今思うとエネルギーが有り余っていた時期だったんですね。一番の思い出は、その年の夏に私が所属していた軟式野球部が全国大会に出場して準優勝したことです。当時、誰も安達東高校が勝ち進むとは思っていませんでした。ダークホースとして新聞を賑わせました。軟式テニスと卓球部も全国大会に進み、健闘しました。そのときの記憶は、その後の人生に



★渡辺さんプロフィール★
卒業後は県内の農業団体に就職し、定年退職と同時に長年の夢を叶えて和牛繁殖農家に転身。「苦勞もありますが、やりがいのある毎日です」

おいて誇りや自信になっています。母校がなくなるのは寂しいですが、後輩の皆さんにも夢を持って人生を楽しんでほしいですね。

「高校時代は毎日が輝いていた時期。同じ仲間と学び、遊び、すべてが楽しかったです！」
昭和五七年卒 三浦きぬ子さん



★三浦さんプロフィール★
卒業後は福祉関係の仕事に就き、現在も継続中。「老いを迎える人たちが元気になるお手伝いをするのが喜びです！」

私は安達東高校普通科最後の卒業生の一人です。最初の一年間は岩代校舎で学び、二年生のときに現在の校舎に移りました。高校時代の思い出としてクラスのみんなと早弁したことや、県民の森での芋煮会、只見や新潟へキャンプに行ったことなど浮かびますが、どれも本当に楽しかったです。安達東高校の後輩のみなさんには、高校生のその時期にしか体験できないことがあると思うので、悔いの残らない高校生活を送っていただきたいです。



▲旧安達高校岩代分校

「一番の思い出は稲刈りとバイク通学。親に頼み込んで行かせてもらえて良かったです」
昭和五〇年卒 渡辺薫さん

親に「農家の後継ぎなんだから高校へ行く必要はない」と言われ、「週に三日は農業をするから」と頼み込んで安達東高校岩代分校に入学。私が二年生のときに安達東高校に変わりました。高校時代の思い出として浮かぶのは、生徒会活動の資金集めのため近隣農家で稲刈りの手伝いをしたこと。友達と農作業をするのが楽しかったです。またバイトしたお金でバイクを買って、友達とツーリングに出かけたり、バイク通学もしました。安達東高校ではシクラメン栽培や養蜂、養鶏など、自然を生かす暮らし方を学べるのが本当に素晴らしいと思います。後輩の皆さんには、卒業後も、その体験をどこかで生かしてもらえたら嬉しいなと思います。



▲稲刈りをみんなでした思い出

★渡辺さんプロフィール★
卒業後は地元で就職。「母校への恩返しを」と平成15年から20年以上、安達東高校の同窓会の副会長を務めています。



※2月28日(火)朝7:11～ラジオ福島「おらが町のふるさとリポーター」の番組に安達東高校最後の卒業生として3年生が登場します。統合への思いや3年間の思い出などを話しますので、時間のある方はぜひ聞いてみてください！

